

Le Monde de Keishin1

中高一貫「六年間」 それは「時間」ではなく、慶進の「世界」

冒険心旺盛な古代ギリシア人は、地中海沿岸に数多くの植民都市を建設しました。ナポリもマルセイユも彼らが建設した都市です。もちろん世界遺産のアグリジェントもその一つです。表紙絵のように、古代ギリシア人はその都市をギリシア風に仕立てました。なぜシチリアにギリシア風なのか。答えは簡単です。それが彼らにとっての「世界 (Le Monde)」だったからです。遠く海を隔てたとしても、彼らが根を下ろしたその土地は、ギリシア世界の延長でした。

慶進も一つの「世界」です。この「世界」で、慶進生は六年間を過ごし、成長していきます。しかし、六年間という慶進の「世界」は、見えているようで、なかなか明瞭に見えないかもしれません。それもそのはずです。十期生を迎えた慶進の世界は、今も発展し、卒業生が社会に羽ばたくたびに拡大しているからです。

「Le Monde de Keishin (ル・モンド・ドウ・慶進)」では、そんな慶進の「世界」を浮き彫りにすることに挑みます。上手なレリーフではないかもしれませんが、「慶進の世界 = Le Monde de Keishin」に足を踏み入れてみてください。

First Stage 共に語らい、共に笑う

Second Stage 自分をみつめ、夢を固める

Third Stage 決意

教科を究める

「同窓生」二期生の慶進

La Photo de Keishin/よみもの

表紙絵 アグリジェント(イタリア)

慶進中学校・高等学校

〒755-0035

山口県宇部市西琴芝二丁目12-18

TEL 0836-34-1111 FAX 0836-21-7228

ks@keishin-ug.com

中高一貫「六年間」

それは「時間」ではなく、慶進の「世界」

慶進中・高等学校は中高一貫の「六年」教育です。この六年を二年ごとに「ファースト」「セカンド」「サード」の三つのステージに分け、日々の学校生活に励んでいます。六年間を同じ仲間と共に過ごすからこそ夢の実現にむけて邁進できるのです。それは、慶進という同じ空間です。このことを意味します。だからこそ、中高一貫とは「時間」ではなく、慶進生にとつての「世界」です。この「世界」について、卒業生、保護者、教員の三つの視点から語ってもらいました。

慶進で育てた 未来への視点



一期生
河杉 翔伍

東京大学工学部四年生

私が慶進中学校に入学したきっかけは単なる好奇心からでした。できたばかりの中高一貫校で自分が一期生になる、自分が慶進の歴史の一ページ目となることができる、その偶然の出会いに運命

を感じ、自分のこれから
の六年間を託してみよう
と思いました。

胸をおどらせながら始
まった中高生活は非常に
有意義で濃いものでした。
一期生ということで様々
な「はじめて」を経験する
ことができたことは、今
の自分にとっても影響して
います。こんなことがあ
ったら面白いのではない
か、ここをこうすればよ
りよい学校生活になるの
ではないか、そんなこと
を先生方と相談しながら

一緒に慶進の最初の歴史

をつくっていくという誰
もができるわけではない
体験をできたことで、思
慮が深くなり、大きな視野
をもつことができました。

また、勉学の面でも慶
進に入ってよかったと感
じています。授業の質が
高いのはもちろんのこと、
休み時間や放課後でも先
生は熱心に質問に答えて
くださるし、個別に課題
を与えることで個々の才
能を引き延ばしていまし
た。先生だけではありま

せん。県内各地から大志
を抱いて集まった同級生
はみな優秀で、ライバル
として互いにいい影響を
与えていました。たび重
なる試験などで心が折れ
そうになった時、支えと
なったのはそういったラ
イバルの存在でした。こ
うした学問をする環境と
しての慶進はとても素晴
らしいものです。

慶進に入学した時に最
初に目にはいった看板に
書かれていた「私たちの
六年後は私たちがつくる」
というフレーズ。このフ
レーズは「大学受験を中
学の時から意識し勉学に
励んでいく」、そういう意
味だと解釈をしていまし
た。その頃の自分にとつ
ては勉強が一番大事だと思
っていたからです。し
かしそういった意味だけ
ではないことに卒業し
た後に気づきました。そ
のフレーズには「常に目

標を高く設定し、未来の
自分を近づけていく」、そ
んな意味もあったのでは
ないかと思います。一期
生として様々なことに目
を向け、考えながら自分
たちが歴史をつくってい
くんだという認識をもつ
て活動しなければなりま
せんでした。その六年間
は常に何年も先のことを
考えて動いていたし、よ
りよい未来をつくれるよ
うに努力をしていました。
これは学生生活に限らず
何にでも言えることでし
ょう。今も自分は常に前
を、未来を見据えてその
自分に近づけるような努
力をしながら生きていま
す。これは慶進生活の一
番の賜物です。

こうした慶進で過ごし
た六年間で学んだことを
生かしながら、これから
も私は常に前をむいて成
長し続けていけるように
日々を重ねていきたいです。

「Go For It」

その意味がわかり始めた

保護者

棟久 佳子

「Go For It」長男が慶進中学校に進路を決めた頃、これが何のことか、私にはよく分かりませんでした。二期生だった長男も現在は大学三年生。振り返ってみると色々なことが懐かしく思い出されます。早期から校門付近の歩道にたまった落ち葉掃きしながら、そこを通って登校する生徒に温かいまなざしを向けながら声をかけられる先生。行事で学校に行ったとき、駐車場の誘導や会場の案内をわかりやすく指示して下さった先生。そんな先生方の愛情と情熱に育まれた六年間だったと思います。長男にとって、どの先生も親しみやすく頼りになる存在でした。学校でのいろいろな出来

事を楽しそうに話す夕食のひとときは家族団らん大切な時間でした。毎日の兄の話に弟、妹が興味をもたないはずはありません。兄に続いて慶進に進路を決めたことはごく自然なことだったと思います。慶進は子どもに寄り添って、子どもを育ててくれます。そう感じるのは科学に興味深い二男が中学校三年生のとき、文化祭で粉塵爆発の実験をしたと言ったときです。中学生に火を使う出し物なんか、普通やらせないと思います。不測の事故などを考えれば、やらせない方が先生方は楽なはずですが、ところが、慶進の先生は中学校・高校の区別なく全校体制でフォローしてくださいました。結果、観覧されたお客様にも中学生、高校生にも大変評判のよいものになりました。もちろん、一番喜んだのは当の本人ですが、親としても慶進の懐の深さを感じた出来事でした。末の娘が現在、高校二年生。自分の進路をしっかりと見極めて未来に羽ばたくことができるように願っています。

「Go For It」その意味が何となくわかり始めたような気がしています。

「若い力」を
育む六年間

中高一貫コース長

藤井 桜

慶進の中高一貫コースは、六年教育です。十八才で大学進学ですから、慶進生は、それまでのなんと三分の一の時間を本校で過ごすことになりました。この長い六年間だからこそのことを、私たちはずっと生徒のみなさん・保護者の方々と一緒に考えながら進んできました。この春、十期生

を迎え、慶進は次のステージへとバージョンアップを目指しスタートしています。

高い学力をめざす授業展開、視野を広く持ち自分が社会にどう貢献できるのかを考える進路学習、そして高めあう仲間づくり。コミュニケーションの場は、校内にとどまらず校外へと広がっています。先日、長崎県生月島からおいしい新米が、高校一年生のもとに届きました。五月に体験した田植えで植えた苗を、生月島の方々が大切に育てて下さり、実りの秋を迎えたのでした。実は、数多くある学校行事の中で慶進生たちの一番人気が、この「ほんなんもん体験」。農漁業体験や民泊を通して、自然の中に生きる人々のたくましさ、温かさを肌で感じ、印象に残る貴重な体験のようです。

他にも、学年をこえて慶進生の企画で実行されるたくさんさんの学校行事では、成功体験で自信を持ち、また、失敗から多くのことを学んでいきます。行事を通しての成長は目を見はるものがあります。

最近では、一期生の先輩が教育実習で帰ってきたり、就職の報告も届くようになりました。また、日本各地の大学で、慶進の先輩が後輩諸君を待つようになり、「慶進の輪」が広がってきました。先輩たちの活躍は、慶進に元気な空気を吹き込んでくれます。

今夏、新しい校舎も完成し学習環境も整いました。慶進は、今後も社会に通用する高い学力と、困難や逆境にもへこたれない「生きる力」を身につけた強い人間を社会に輩出すべく、前進あるのみです。

First
Stage

共に語らい、共に笑う

その空間が慶進生をつくる

慶進では、中学校一年・二年をファーストステージとし、生活習慣・学習習慣の確立、何より六年間を共に過ごす仲間作りの時期と位置づけています。西は下関、東は防府と様々な小学校から集った若き慶進生が過ごす慶進の世界とはいかなるものでしょうか。

入学してすぐ
仲間ができた村上 颯一郎
中学校一年(十期生)

二〇一三年一月九日、僕に一通の封筒が届きました。これまでの集大成とも言える合格通知です。僕はとても嬉しいと思う反面、だんだんと不安な気持ちになっていきました。

僕は防府市から慶進に

通っています。防府市から通う中学生は、僕を合わせて二人だけです。他の市の人達は、話すことも流行していることも違うので、人の輪に入れなかったらどうしようかと悩んでいました。

実は、慶進中学校では入学式の後、すぐに宿泊研修という行事が徳地青少年自然の家で毎年行われています。これは、違うところから集まった慶進生の団結を促すというものです。

入学式前の自分にとっ

宿泊研修の主なプログラム

- ・徳地教育プログラム (TAP)
- ・学習指導 (英語・国語)
- ・オリエンテーリング
- ・キャンドルサービス (立志)
- ・集団行動

て、大きな光でした。入学後、話せるような仲の人はできましたが、まだぎこちなく、友達といえるような人はできませんでした。

そして、宿泊研修が始まりました。慶進中学校から約一時間妙な雰囲気バスに乗り、誰も話さず徳地につきました。そこで待っていたのは、三日間の集団生活でした。一日目、入所式、オリエンテーションが終わると、生活指導があり、その後まさかの授業です。



▲ 十期生の旗を掲げて

なぜここまで来て勉強をしなければならいのでしょうか。全員が頭の中に「？」を浮かべながらの授業になりました。

しかし、今ではこれもほかの人と話すきっかけになったのではないかと思います。目的から少し離れたことが、ことによつては、話す題材ができ、近くの人と話し、関わるきっかけとなります。まさか、先生はここまで考えて授業を行ったのでしょうか。もしそうなら、行動が読まれているよう

で、さすが慶進と感じずにはいられません。

二日目、グループで森の中にある番号札を見つけ、得点を競うオリエンテーリングというスポーツをしました。団結するというにとっても適しているスポーツです。

この他にもキャンドルサービスなどの行事や、一緒に食事をしたり、風呂に入ったり、寝たりすると互いに打ち解けあっていました。その時には、最初感じていた不安がぱからしく思えてきました。帰りのバスは最初と打って変わり、ようやく、「友達」と話すことができるようになりました。僕は今、サッカー部に入っています。部員のみんなと協力して練習に励み、楽しく充実した学校生活を送っています。

修学旅行が紡いだ 八期生の絆

山城 玲衣
中学校三年(八期生)



私は中学二年生の修学旅行で、たくさんさんのことを学びました。東京大学で色々な人の話を聞いて、将来のことについて考えたり、東京証券取引所で証券について学んだりしました。その中でも特に、私は「仲間」と過ごす楽しさを感じることができました。夜、友達が集まって、その日にあったことや、勉強のこと、恋愛のことなど、様々な話をしました。夢中になり時間を忘れ、同室の人と夜中までずっと話してしまったりしますが、友達と話すとが楽しすぎ



▲ 東京大学におけるミニ講義の様子

て、寝る時間をもったいないと思うほどでした。友達とは前よりももっとお互いのことを知ることができたし、日頃はあまり話さない人ともたくさん話すことができて、とても心に残っています。また、初めてのディズニーシーでは、友達とたくさんさんのアトラクションを楽しみ、お土産を一緒に選び、一日中とにかく遊びました。中学生になり部活や勉強などで忙しく、友達と遊ぶこともあまりなかったのですが、やっぱり友達とわいわいはしゃぐのはとても楽しいな、

主な訪問先(八期生)

- ・慶應義塾大学・東京大学
- ・劇団四季「ライオンキング」
- ・東京ディズニーシー
- ・東京証券取引所
- ・スカイツリー など

と思いました。

そして、この修学旅行では、私は男女関係なく学年全体でも仲良くなれたと思います。まだ慶進中学校に入学して二年ほどしか経ってない頃だったので、グループで固まってしまう、同じクラスでも全然話すことがないような人も何人かいました。しかし、この四日間、班で行動したり、いつもはあまり一緒にいない人と話す機会がたくさんあり、みんなの絆が深まったと思います。

慶進中学校は中高一貫なので、高校でも同じメ

La Classe de Keishin 授業の「世界」

パーキン先生(英語科)の「世界」

慶進では、英会話の授業でカナダ人のパーキン先生からネイティブの英語を教わります。授業では、英語を使ってゲームや劇をしたりするので、楽しみながら英会話が学べます。他にも、色々な先生に英語で質問しカードにポイントをもらう、「Question Crazy Card」というものをします。英語で質問を考えるのは難しいですが、レベルの高い質問をするとより多くのポイントがもらえるので英語力が鍛えられます。

また、年に一度校内スピーチコンテストがあり、学んだ英語力を試すことができます。様々なことを英語で表現するのは難しいですが、先生方が丁寧に教えてくださるので、発音や表現力が身に付きますし、英語を話す自信もつきます。

英会話の授業を通して、海外の文化や習慣も学ぶことができ、ますます英語が身近に感じられ、英語を話す楽しさを知ることができます。

中学校二年(九期生) 田中 優希

ンバーです。これからは八期生の仲間と一緒にほんなもん体験や勉強合宿、二度目の修学旅行などたくさんの方に参加することになります。友達同士で喧嘩をしてしまうこ

となどありますが、この修学旅行でできた絆を大切にして、これからの学校生活も有意義なものにしていきたいと思っています。

Second
Stage

自分を見つめ 夢を固める

慶進生は、中学校三年・高校一年のセカンドステージで、自分の将来像をみつめ、学部・学科を決定します。そして、高校二年・高校三年のサードステージで、その夢の実現に向けて邁進します。ここでは、セカンドステージの学部・学科紹介とセカンドステージファイナル、高校二年生にサードステージの決意を語ってもらいます。

先輩に伝える 学部・学科調べ

重永 雅人

高校一年(七期生)

九月二十七日にKSホールで学部・学科紹介がありました。これは、高校一年生が自分が興味のある学部学科について調べ、それを中学三年生に発表するというもので、今年には十三の学部学科のブースができました。この行事を通じて、高一生は文系理系の進路選択へ

向けての意識を高めるとともにプレゼンテーションの力をつける機会となり、中学三年生にとって進路について考える良いきっかけになったと思っています。

中学生の時は聞く立場で、その時は学部と大学の名前を少し知っているだけだったので、どの学部で何を研究し、どんな職業になれるかを詳しく教えてもらった時は、「なるほどなあ」と思ったこ

とを今でも覚えています。そして、学部学科を紹介する立場になった今年は、「先輩がしてくれたように、自分も先輩にわかりやすい説明をしよう」と思いながら説明をしまし

た。当日の発表を振り返ってみれば反省点もありますが、一番伝えたかったことは伝えられたと思っています。先輩たちが一年前の自分のように、「なるほどなあ」と思っ

てくれていたら嬉しいですね。中学三年生のみならず、来年はぜひ先輩のために良い学部学科紹介をしてください。期待しています。

セカンドステージファイナル 決意を固め、夢の実現に挑む

セカンドステージファイナルは、高一と高二の間の春にあります。この時期、誰もが受験について考える頃で、各人の志望校決定に大きく関わってくる大事な時期です。そんな時期に一体何をするのか、というと入試の対策をします。ガチガチでスパルタな特訓をするというわけではなく、感覚的に入試を感じろ！といったものです。

対策としておこなわれるのは、各学部の希望者同士のグループディスカッションやプレゼンテーション、各個人の模擬面接などがあります。ここでは、それぞれのできや完成度はあまり関係なく、自分をいかにして表現するのか、ということを問われます。自己アピールの難しさ、大切さを痛感できるはずです。

実際に入試で大学に合格した先輩と対話する時間も設けてあります。受験については言うまでもなく、それ以外のことも直接先輩に質問することができる、数少ない機会でもあります。

最初は、「成績も悪いし、自分の進路は・・・、セカンドステージファイナルのメインイベントは食事と風呂と就寝前。」という人もおそらくいます。しかし、それが変わっていきます。本当に大事なものは、自分の進路、夢について改めて考え、誰かに聞いてもらうこと。セカンドステージファイナルは本格的に受験モードに入る前だからこそ、必要な決意表明の場でもあります。

高校二年(六期生) 重永 翔太郎

大好きな言語で 世界をつなぐ

常 惠喬

高校二年(六期生)

「受験」という現実が受け入れられず、考えることを避けること三ヶ月。ついに勝負の夏休みになつてしまいました。とりあえず大学のオープンキャンパスに行つてみようと思い、そこで初めて、行きたい大学についてちゃんと考えることになりました。様々な大学や学部について調べ、大学見学に行くことにし、その付近の叔父の家に泊まることにしました。

出発前、私は経済学部で国際貿易について学ぼうと考えていました。その理由としては、ひとつは、両親のように様々な言語を用いて貿易する仕事に携わりたいこと、もうひとつは、貿易につい

て学べば、就職に有利になるだろうと根拠のない自信があつたためでした。

しかし、叔父と話をしたことで、私の考えは大きく変わりました。叔父は「自分の好きなことを学び、自分の長所で人と勝負しろ。自分の好きなことをやれば、一生懸命に取り組めるだろうし、その分結果もついてくるものだ。」と言いました。この言葉は私が将来のことを、もう一度考え直すきっかけになりました。

そして、自分は大好きな言語を使って国と国をつなぐ仕事につこうと決め、大学で言語や国際関係を学びたいと思いました。発音に惚れた英語を堪能に喋れて使えるようになること、私にとつてもう一つの母国語である中国語の読み書きを学ぶこと、それから大好きな韓国語を完璧にするこ

T h i r d

決意

と、日本語をふくめて四カ国語をできるようにすることを、決意しました。こうして、大学でしたいことが決まると、モチベーションも上がり、勉強に対する姿勢も、全く違ったものになってきました。合格するには、今、自分は何をすればいいの

かが明確にわかってきたのです。あとは、残された時間の中で精一杯努力していきます。

仲間と共に 夢に向けて邁進す

西村 太一

高校二年(六期生)

夏が過ぎ、二学期も中盤を迎えようとしています。私は高校一年生の時から、医学部を志望して

きました。一年生の頃は「病気を治したい」という漠然とした理由で医学部を第一志望にしましたが、受験までに残された時間が減つてくると、現実を突きつけられます。

医学部の受験は他学部と比較すると、過酷なものだと言うことは周知の事実です。おそらく、半端な意志では、受験のつらさに耐えることができないと思います。私は、受験の間、「医学を学びたい」という強い意志を保ち、勉強へのモチベーションを下げないように努めていきたいです。そのためには、親や友人、学校の先生方の力は欠かせないものだと思います。

秋を迎え、周囲の勉強に対する意識も高まり、私の勉強へのモチベーションも着実に高まっています。良き好敵手と競い合うことで、次第に、勉強が苦にならなくなりま

した。また私は、残った高校生活の間に、行事に積極的に参加し、大学で医学を学ぶ間、そして卒業後の社会生活において、その経験を活かしていきたいです。医者には、医学の知識も必要ですが、その他にも様々な能力が必要です。高校生活を、自分のスキルアップに役立てれるように有意義なものにしていきたいと思っています。

夢を叶えるために、今からたくさん試験があると思います。しかし、その試験に打ち勝つための強い意志を、折れない心を身に付けるために、勉強やその他諸々のことに一生懸命に取り組んでいきたいと思っています。そして、夢に向かって一歩でも前進できるように、日々努力していきたいです。

教科を究める vol.1 理科を究める

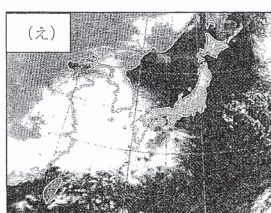
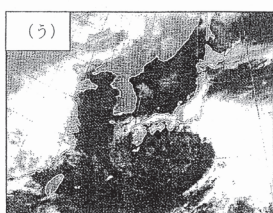
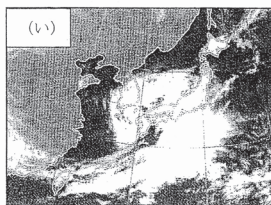
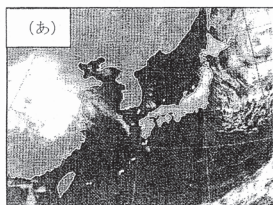
学力診断テスト

多くの慶進生が、最初に経験するテストが、この「学力診断テスト」です。毎年、九月初旬に実施し、多くの小学生が受験してくれます。そこで、この「教科を究める」の第一回は、この「学力診断テスト」の理科を取り上げます。理科の福田直輝先生が、学力診断テストの解説をいたします。

慶進中学校
学力診断テスト・理科（平成二十五年九月実施）

4 日本付近の天気について、次の(1)～(8)の問いについて答えなさい。

(1) 次の図は、ある年の春の一日ごとの気象衛星からの写真で、白く見えるところが雲です。(あ)～(え)を日にちの順に並び変えなさい。ただし、図(あ)を最初とします。

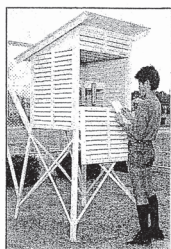


(4) 次の文は、春の日本付近の天気の移り変わりについて書いたもので、文中の()には東・西・南・北の4つの方位のどれかが当てはまります。当てはまる言葉を選び、それぞれ答えなさい。

文：春の日本付近の天気は(①)から(②)に向かって移っていくことが多い。

(5) (4)の文のように天気が移り変わる理由を簡単に答えなさい。

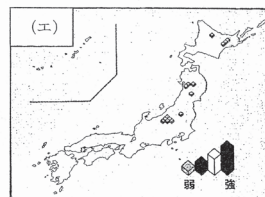
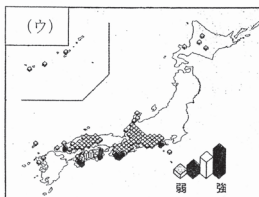
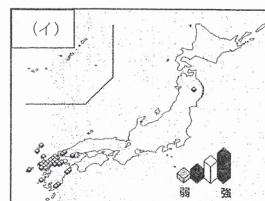
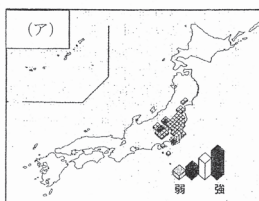
(6) 空気の温度をはかる条件によって変わるので、一定の条件にしてはかったものを気温としています。下の図は、気温などをはかるための条件を考えて作られたものです。名前を答えなさい。



(2) 図(あ)のときの山口県の天気として最も適当なものを次の中から選び、言葉で答えなさい。

[晴れ 曇り 雨 雷]

(3) 次の図は、(1)の4つの日のアメダス（地域気象観測システム）の雨量情報です。図(い)のときのものはどれですか。(ア)～(エ)から1つ選び、記号で答えなさい。



解説

大問4は「天気の変化」

についての問題です。日ごとに変わる日本付近の天気の変化の規則性を理解することが大事です。

(1)は雲の移動を考えましょう。日ごと形を変える雲ですが、大きな塊としてとらえること、ほぼ同じ間隔・方向で移動することを踏まえてください。また一つの雲が図から出ていき、新しい雲が図に入ってくることもあるので注意が必要です。

(2)で、図(a)を見ると山口県付近には雲がありません。つまり、天気は晴れか快晴です。選択肢には快晴がないので、晴れが正解となります。

(3)では、雲があれば雨が降るのではなく、雨の降るところには雲があると考えてください。(曇りの天気がありますから) また、気象衛星からの雲画像は陸上加え海上の雲も表しますが、アメダスの雨量情報は陸上だけを表していることに注意してください。

(4)(5)では日本上空を流れる風の特徴をもとに考えてください。日本上空には西から東へ向かって吹く偏西風が吹いています。特に春や秋には、この風につけて雲や前線が流れていき、天気が規則的に変化します。

(6)(7)は百葉箱についての問題です。温度計などは、よい戸のようになつて壁で囲まれた箱の部分の中にあり、直射日光が当たらないが風は通る状態になつていて、箱は地面から離れた高いところにあることなど、つくりの意味から考えてください。

(8)はグラフの読み取り問題です。変化の理由を

考えてください。晴れると気温は上がります。十一時までは気温が上がっていないので曇り、十一時から気温が上がっている、この頃曇りから晴れに変わったことがわかります。なお、二時から気温が下がっているのは、再び曇ったからではありません。一日中晴れた日でも気温は二時ころをピークに下がり始めます。

変化の規則性(方向性)が読み取れるように図や表の理解を深め、計算に慣れることが大事です。

過去問や今回の学力診断の問題も十分に復習をしておく、類題を短時間で解け、得点もアップするでしょう。

本番の入試まで、まだ時間はありますので、あせらず学習してください。

解答

(8)	(6)	(5)	(2)	(1)
十一時ごろまで曇りで、その後晴れた。	百葉箱	日本上空を一年間を通じて、西から東へ同じ方向に向かって風が吹いているから。	晴れ	あ ↓ え ↓ い ↓ う
	(7)		(3)	
	①イ		ウ	
	②イ		(4)	
	③ア		①西	
	④イ		②東	

教科のコラム

英語のエトセトラ

英語科 中島 聡美

英語は魅力的な言語です。世界ですれ違う多くの人と通じ合うために使われている、コミュニケーションツール。日本では受験のためだけに勉強する人が多いようですが、国によっても形が異なり、日々進化する英語は楽しく学べば思わぬ発見があるのです。

英語が使えれば人とながる。人とながればできることが増える。そんな英語の本質を知ってもらいたい。英語を通して自己表現力を身に付け、次のステップに行くための可能性を広げる手助けをするのが私の仕事です。



檀上 貴美
(山口大学教育学部社会科教育3年)

関 満里奈
(山口大学医学部医学科3年)

棟久 晃司
(山口大学医学部医学科3年)

同窓生

二期生の慶進

平成二十二年度卒

二期生の棟久晃司君、関満里奈さん、檀上貴美さんが、慶進中学校・高等学校に帰ってきました。皆、二十歳を超えて、ますます成長し将来の目標に向かって歩み続けています。

この写真は、彼らの希望で二号館の教室で撮りました。この教室は、今は中学一年一組の教室ですが、彼らが中学生のころは中学職員室でした。慶進中学校のスタート期に入学した彼らは、今の慶進の土台を築いていきました。何もかもが初めてで、私たち教員も初体験の連続でした。生徒たちは本当にいろいろなことに挑戦し、そして多くの困難を乗り越えていき

ました。生徒と保護者と教員とで新しい学校を作っていくというひとつの目標に向かい皆で協力し、行事を行い、時には議論を交わし、反省し、改善していった毎日を覚えていきます。

そんな中で学校生活を送り、育った彼らですから、何をするにもしっかりと考えることができ、実行力も企画力も伴っており、なにより人を大切にします。

これから社会にでも、多くの情報を処理し、的確な判断をし、同僚を助けることのできる社会人になり、そして社会に大きく貢献することと思います。

元担任 早川 武

司会 現在大学三年生の自分は、高校時代に思い描いていた大学三年生の自分と同じですか？

関 全然違います。も

っと大人だと思っています。

し、意外と忙しいです。

大学生は遊ぶ時間のある

イメージでしたが、授業

等が予想より大変です。

棟久 大学では、自分の

学びたいことばかり勉強

すると思ったのですが、

意外とそうでもなく、高

校の時の勉強方法とつな

がる部分もあります。

檀上 自分で課題を見つ

け出すというイメージを

持っていませんでした。

自分で見つけないと課題

もなく、遊んでばかりに

なってしまう所だと感じ

ています。

関 学部によって違う

と思いますが、私たちの

学部は慶進の時の単元別

テストのようなシステム

です。前期・後期によら

ず、一つ一つのことをま

とめ、よくおさえていか

ないといけません。

司会 久しぶりの中学校

の教室は、どのような印

象でしたか。

棟久 懐かしいという印

象が一番ですね。一年ぶ

りに慶進に来て、中学時

代のことを思い出すこと

ができました。

関 教室では他愛無い

ことばかりしていたなと

思います。今だから言え

ますが、恋愛の話をした

り、先生のことなどを話

したりよくしたなと思

います。

檀上 中学三年生の卒業

証書授与式が終わった後

に教室の後ろで合唱をし

たことを思い出しました。

司会 教室には十期生の

中学校一年生の姿があり

ました。彼らを見てどう

ですか？

だと実感します。私たち

は先輩がほとんどいなか

ったので、先輩がいるこ

とがうらやましく感じま

す。

関 先輩の姿を見て、

先の道がイメージできる

のが良いですね。

司会 皆さんも後輩たち

にとって、その「道」の

一つですね。

関 後輩たちがどう思

っているのか聞いてみた

いですね。私たちのこと

を知らないと思いますが。

司会 出会ったことのない

後輩がいるという存在

をどう思いますか。

棟久 まだ実感はあまり

ないですね。

檀上 街を歩いていても

慶進の制服を着ている生

徒を見て懐かしく感じま

す。

司会 六年間同じ仲間と

同じ空間で過ごしました。

檀上 大学に入り悩みな

どもあったのですが、夏

休みなど長期休暇で慶進

に帰り、仲間と会った時

には大きな安心感を持ち

ます。

関 大学に入っても六

年間で一区切りなので、

六年間同じ場所で学ぶと

いうことにも違和感はな

かったです。六年間一緒

にいると、やはり友人同

士のつながりは強いのだ

と感じます。

棟久 中高六年間を一緒

に過ごしたので、大学で

友人ができて、慶進で

の仲間を大切にすることに

ができます。

司会 慶進という空間、

世界を一言で表すと？

檀上 「そうぞう」です。

創造と想像両方のイメー

ジを持ちます。

関 「無限大」です。

これから将来目指せるこ

なことに挑戦できると思

います。今回、中学生が

ディベートで好成績を修

めたことなどは私たちの

時には無かったことです

し、今あることだけでな

く様々なことを経験して

ほしいと思います。慶進

生の様々な活動を新聞な

どで目にすることは卒業

生としてもとても嬉しい

ことなので、猝にとらわ

れず何事にも挑戦し、六

年後自分の目指す道へ進

めるように頑張っつてほ

いです。

棟久 残念ながら、言

いたいことを全部言われて

しまった気がします。で

も、これが慶進ですね。

司会 中高一貫だからこ

そ、重なりあう慶進とい

う世界なんですね。短い

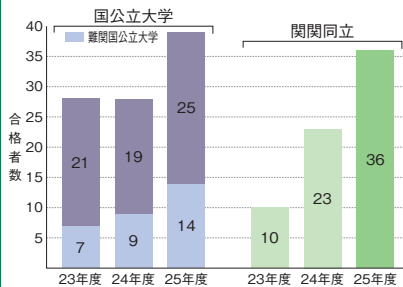
時間でしたが、六年間の

世界を見ることができま

した。今日はありがとう

掲 示 板

慶進高等学校 大学合格者推移



平成25年度 東大1名、京大2名
(現役生) 国立医学部医学科4名 など

慶進中学校 入 試 日 程

10月19日(土) 入試説明会／公開授業
11月16日(土) 入試説明会／公開授業
1月5日(日) A日程入試
1月26日(日) B日程入試

La Photo de Keishin 慶進の一枚「職員室前」



「職員室前」

「慶進の世界」には、実に多様な風景が広がっています。このコーナーでは、その一面を一枚の写真に収めました。

第一回は「職員室前」です。設置された大きなカウンター越しに、慶進生が先生を呼ぶ声が響きます。そして、写真のように、慶進生と先生が話す風景がみられます。

「よみもの」第一回

『山椒魚』

国語科 西山 智彦先生

本との出会いは、偶然に満ちたものが多い。大学院時代のある講義で教授がふとこんなことを言った。「穴から出られなくなった山椒魚のことを思い出す」。今では何の講義だったかすら覚えていない。でも教授のその言葉に妙に引き付けられた自分は、帰りがけに井伏鱒二の『山椒魚』とタイトルがついた一冊を買って帰った。その本はこんな一節ではじまる。「山椒魚は悲しんだ。彼は彼の棲家である岩屋から外へ出てみようとしたのであるが、頭が出口につかえて外に出ることができなかったのである。」理由は分からないが、二年もの間、岩屋の中で時を過ごした山椒魚は、からだが大きくなってその岩屋から出られなくなってしまうという話である。なんだか滑稽な山椒魚だという感じだが、二年もの間その棲家の中でじっとして何もしなかったというその姿にどうも自分を重ねてみたのを思い出す。そんな山椒魚は岩屋から出ようと必死にあがくのだが徒勞におわる。そしてこんな一言をもらす。「ああ寒いほどひ

とりぼっちだ！」人は生きていると時々こんな心境に襲われる。例え周りに家族や友達がいるとしても。

この話は次のような展開で結ばれる。ある日、岩屋の中で滑り落ちてきた蛙を山椒魚は岩屋に閉じ込める。そしてこんな悲しくも滑稽な言い争いをする。「出て来い！」(蛙へ向かって山椒魚が言う)「出て行こうと行くまいと、こちらの勝手だ。」「よろしい、いつまでも勝手にしろ。」「お前はばかだ。」「お前はばかだ。」

二年の月日が過ぎた。もはや蛙と山椒魚は言い争う力もなく互いに黙り込んでいた。そんなある日、蛙の「ああああ」という嘆息に山椒魚は気づき、蛙に尋ねる。「お前は今どういうことを考えているようなのだろうか？」今にも力尽きそうな蛙は遠慮がちに答えた。「今でもべつにお前のことをおこつてはいないんだ。」

この最後の一節が自分の心にひかかった。どのような意味なのか。なぜ蛙は山椒魚に対しておこつていないのか。まったく分からない。そして初めて読んだ頃から7年経った今、もう一度読み返してみても、未だに何も答えはでないままだ。